

6月定例会の質問者

南木 清一議員(自民党)

- ①市長の政治姿勢(経済危機対策、総合的な交通ネットワークの構築ほか)
- ②行財政運営(栃木県の財政健全化プログラム、税制改正に伴う市税の減税措置ほか)
- ③JR宇都宮駅東口地区整備事業(辞退理由と法的責任ほか)
- ④教育行政(教育委員の役割ほか)

真壁 英敏議員(民主市民)

- ①市長の政治姿勢(私的な外遊問題、財政問題ほか)
- ②総合評価落札方式
- ③環境行政
- ④外部監査報告からの指摘事項
- ⑤泉が丘コミュニティセンターの改修
- ⑥市民の健康づくりの推進
- ⑦武道場の建設
- ⑧スポーツ施設整備計画の進捗状況
- ⑨プロスポーツの支援策

塚田 典功議員(自民党)

- ①市長の政治姿勢(JR宇都宮駅東口整備、千手宮島地区再開発、小幡清住地区区画整理ほか)
- ②環境行政(環境学習の推進ほか)
- ③安心して暮らせるまちづくり(救急医療体制、新型インフルエンザ対策、飼い主のいない猫対策)
- ④市民に親しまれる市役所づくり

木村由美子議員(公明党)

- ①県財政健全化のための補助制度見直し
- ②地域自治制度
- ③新型インフルエンザ対策(まん延時の対応)
- ④女性のがん対策
- ⑤子育て支援の拡充
- ⑥高齢者障がい者の支援拡充
- ⑦米粉の普及促進を
- ⑧公園や家庭等の鳥取方式芝生化の推進
- ⑨学校トイレの整備促進

五月女伸夫議員(自民党)

- ①地域まちづくり組織に対する支援
- ②岡本駅周辺の整備
- ③河内地域スポーツ環境の整備(河内総合運動公園「多目的広場」完成後の全体的利用計画ほか)
- ④河内地域の資源の活用
- ⑤地域自治拠点の整備
- ⑥教育行政(外国人児童生徒教育推進計画ほか)
- ⑦二次救急医療

藤井 弘一議員(統一)

- ①市長の政治姿勢について(市民に信頼される政治とは何か、持続可能なまちづくり、緑のもったいない運動、地元テレビとラジオの使命)
- ②健康と地域医療行政について(第二次救急医療体制の検証)
- ③教育行政について(自問清掃)

石井 万吉議員(民主市民)

- ①市長の政治姿勢(佐藤市長の選挙公約、LRTの導入問題ほか)
- ②建設事業(板戸大橋と宮環への接続問題、競輪場通り拡幅問題、市道1160号線の問題)
- ③福祉関係(児童虐待問題、自殺対策、介護保険の諸問題ほか)
- ④環境問題(太陽光発電の導入)

菊地 公史議員(公明党)

- ①市有財産の有効活用による財源の確保
- ②地球温暖化対策と経済活性化対策(エコカー購入促進ほか)
- ③バイオオマスタウン構想
- ④結婚活動「婚活」支援
- ⑤ひきこもり対策
- ⑥小規模小学校と地域振興対策(小規模小学校の現状と今後の取り組みほか)

横松 盛人議員(自民党)

- ①本市が目指す学校教育のあり方と展望
- ②小学校の「子どもの家」事業のあり方
- ③スポーツを活かしたまちづくり
- ④肺炎球菌ワクチン接種
- ⑤食肉市場に関わる本市の姿勢
- ⑥園芸用土の採取にかかわる監視体制の確立
- ⑦障がい者支援(障がい者の就労支援)

植松 明男議員(民主市民)

- ①宇都宮市の施策
- ②市中心部活性化施策
- ③まちづくりの中での見える環境
- ④市財政の健全化と市民サービスの確保
- ⑤地域自治制度
- ⑥河内地域西部地区
- ⑦本市の「ネットワーク型コンパクトシティ」北部拠点
- ⑧宇都宮市悠久の丘(業者の広告看板)
- ⑨教育問題

荒川 恒男議員(共産党)

- ①市長の政治姿勢(そのとき市長はサイパンだったほか)
- ②JR宇都宮駅東口開発など
- ③LRT推進をめぐる
- ④保健福祉行政(保育園の耐震化対策ほか)
- ⑤環境行政(上駒生産廃処分場の調査結果と今後の対応ほか)
- ⑥消防の広域化は市民のためになるのか

西 房美議員(進歩)

- ①父子家庭手当を
- ②市営住宅の浴槽
- ③歩道(身体障がい者にやさしい街か)
- ④LRTの電磁波と心臓ペースメーカー
- ⑤美術館のレストラン
- ⑥入札の不正
- ⑦市長の外遊と業者との癒着
- ⑧下水道接続の不正への対応
- ⑨天下り
- ⑩市長・副市長の公用車

特別委員会報告書

平成19年6月定例会で設置した各特別委員会の調査が終了し、議長に報告書が提出されました。

合併後のまちづくり調査

合併によって加わった様々な観光資源を活用して各地域の魅力を引き出すとともに、一つのまちとしての一体感を醸成していくことや、地域性を色濃く残した数多くの行事や歴史・文化を継続させていくための取り組みが必要である。

公共交通調査

地域間や市民間の交流を深める取り組みを行うほか様々な媒体と機会を使って継続的に地域の情報を広報していくことが不可欠である。

誰もが移動しやすい交通環境の整備には、JR宇都宮駅を中心とした現在の放射状の公共交通ネットワークから、輸送需要に応じた基幹幹線、支線からなるネットワークへの転換が必要であり、特に基幹部分については、バスシステム再編か、軌道系公共交通の導入か、早期に方針を示すべきである。



▲上河内地区の荒天まつり

過疎地の住民や交通弱者の足であるバス路線の維持存続には、事業者と行政の十分な相互連携が重要である。